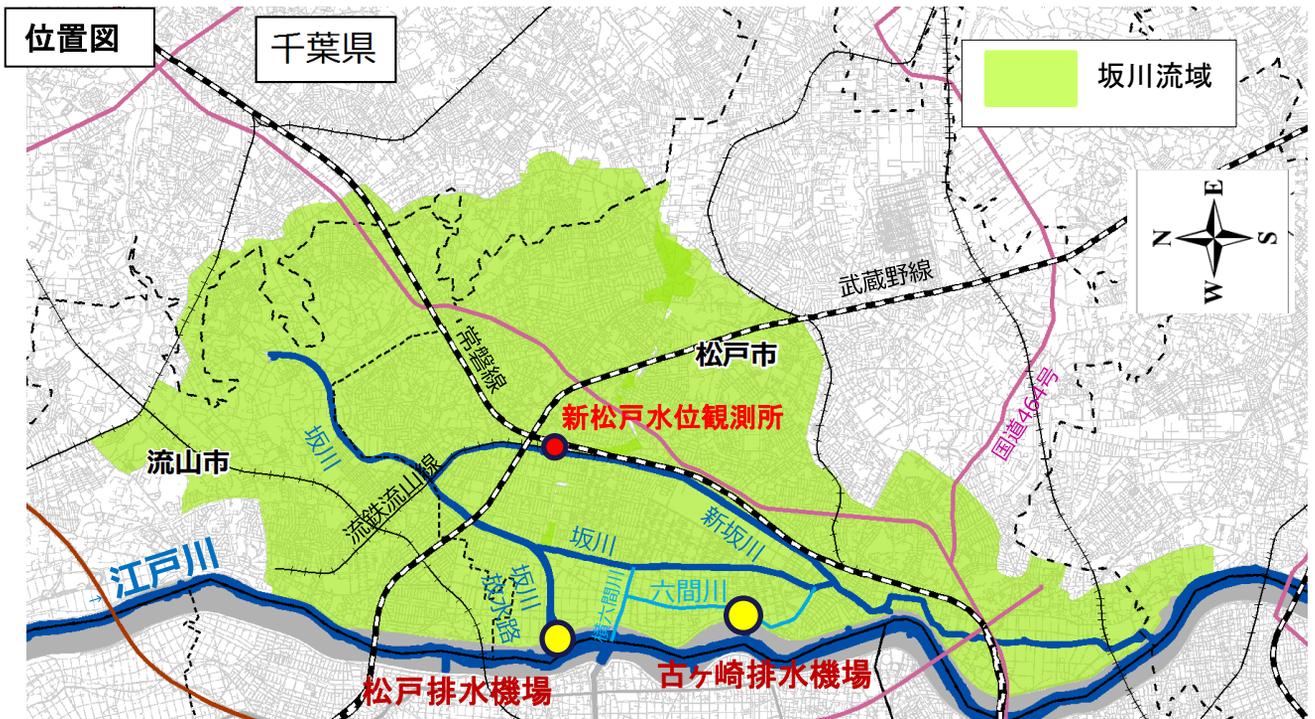


## 松戸排水機場・古ヶ崎排水機場等の被害軽減効果

今年の8月、9月、10月の3ヶ月間で5度の出水がありました。松戸排水機場と古ヶ崎排水機場は5度の出水ともに稼働しており、両機場の稼働により浸水被害を軽減できたと考えています。  
今回は主水だより号外として、松戸排水機場と古ヶ崎排水機場等の効果について、今年10月の台風第21号と平成27年9月 関東・東北豪雨時の出水を例に紹介いたします。



### 松戸排水機場



松戸排水機場には3台のポンプがあります

- 1号ポンプ(25m<sup>3</sup>/s)
- 2号ポンプ(25m<sup>3</sup>/s)
- 3号ポンプ(50m<sup>3</sup>/s)

## 古ヶ崎排水機場



古ヶ崎排水機場には2台のポンプがあります

1号ポンプ(7.5m<sup>3</sup>/s)

2号ポンプ(7.5m<sup>3</sup>/s)

## 【平成29年10月 台風第21号】

平成29年10月の台風第21号では、坂川流域でも非常に強い雨が降りました。松戸では48時間に144mm(時間雨量最大15mm/hr)を記録しましたが、松戸排水機場・古ヶ崎排水機場等の稼働により、浸水被害が起こることはありませんでした。このとき松戸排水機場と古ヶ崎排水機場が稼働しなかったとすると、約140haの面積が浸水し、約5,900戸が浸水したと考えられます。また、両機場の効果により新松戸水位観測所付近では新坂川の水位が約1.0m低下できたと考えられます。

下の図は、平成29年10月の台風第21号で松戸排水機場と古ヶ崎排水機場を稼働しなかった場合の浸水深図(シミュレーション結果)です。この結果から施設が稼働しなかった場合は、浸水が広範囲に及んだと考えられます。



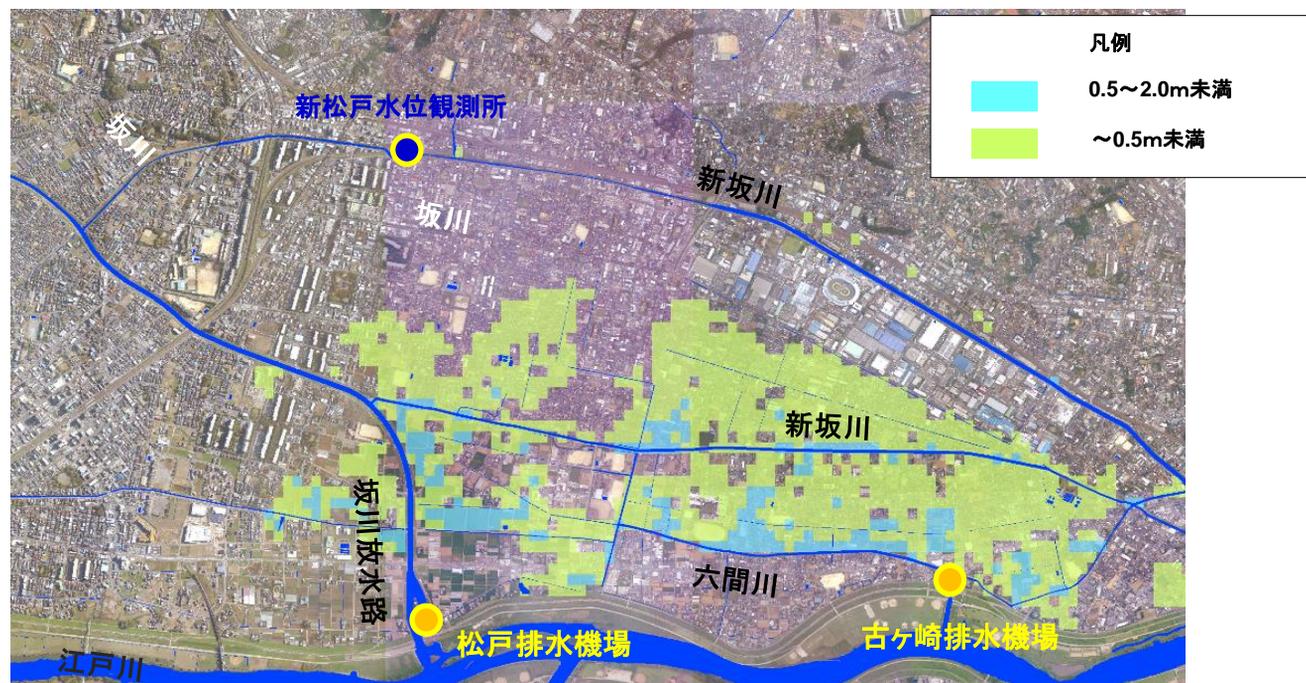
## 【平成27年 9月 関東・東北豪雨】

平成27年9月の鬼怒川が決壊したときの出水では、坂川流域でも非常に強い雨が降りました。松戸では48時間に235mm(時間雨量最大44mm/hr)を記録しましたが、松戸排水機場・古ヶ崎排水機場等の稼働により、浸水被害を大幅に軽減しました。

このとき松戸排水機場と古ヶ崎排水機場が稼働しなかったとすると、約310haの面積が浸水し、約1万戸が浸水したと考えられます。

また、両機場の効果により新松戸水位観測所付近では新坂川の水位が約60cm低下できたと考えられます。

下の図は、平成27年9月の出水で松戸排水機場と古ヶ崎排水機場が稼働しなかった場合の浸水深図（シミュレーション結果）です。この結果から施設が稼働しなかった場合は、浸水が広範囲に及んだと考えられます。



排水機場の効果については下のページにも掲載されています。  
[http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa\\_index044.html](http://www.ktr.mlit.go.jp/edogawa/edogawa_index044.html)

松戸排水機場と古ヶ崎排水機場の操作は松戸出張所で行っております。今後も浸水被害が起こらないよう、万全の体制で両機場の管理、操作を行ってまいります。